

第 23 回企画運営委員会（14.10.20）のまとめ

平成 26 年度 2 回目の企画運営委員会は通算で 23 回目となり、10 月 20 日（月）に江南区役所 302 会議室で開催されました。

今回は、9 月下旬から 10 月上旬に開催した配食サービス試食&意見交換会に関する報告を行いました。また、12 月に開催する福祉のネットワーク交流会に関する事務局案を説明した後、福祉の現場に関わる企画運営委員の意見を出し合い、検討を行いました。話し合いの内容は以下のとおりです。配付資料とあわせてご覧ください。

配食サービス 試食&意見交換会について

- （事務局より）9月下旬から10月上旬にかけて三地区で配食サービス試食&意見交換会を実施しました。意見交換で出された内容に関しては配布資料をご覧ください。
- 試食&意見交換会にも参加した企画運営委員の感想は以下の通りです。
 - サービスが多様化し、利便性も向上していることが分かった。
 - 様々な工夫があり選択肢が豊富である。
 - 新しい提案をしている業者を知ることができた。高齢者だけでなく一般の方への対応もしており、その視点も大切だと思った。
 - それぞれ特色があり、飽きることがなかった。
 - パンフレットや調査だけでは分からなかったが、見守りや安否確認をしっかりとやっていることが分かった。
 - 思った以上に熱心に利用者のことを考えていた。一人一人のことを考えながら、商売を成り立たせようと努力していることが分かった。
 - 利用者と配達員の関係ができているのを知った。この観点は盲点だった。
 - 認知症の方の対応は大変だ。何かしらの支援が必要そうだ。
 - 配食を利用することに罪悪感を感じる方もいる。感じないようにしたい。
 - 直接会って話すことで分からないことが分かった。また、利用者（紹介者）と事業者が直接つながる機会になり、連携の可能性が出てきた。これまで接する機会がなかったため、事業者もとても喜んでいて。

平成 26 年度江南区福祉のネットワーク交流会について

【江南区福祉のネットワーク交流会 企画内容】

- （事務局より）12月16日(火)13:30～16:00に福祉のネットワーク交流会を開催する。
今回の主な内容は福祉の学び舎事業6年間のふりかえり、参加者同士の意見交換、トークセッションの3つである。
- （事務局より）トークセッションでは、新潟お笑い集団NAMARAの江口氏と森下氏をお呼びし、「これからの地域福祉は地域に関わる全ての人による総力戦」という切り口でお話いただく。トークセッションの前に行う参加者同士の意見交換でどんな方が参加しているかの把握と参加者が考えるキーワードを出してもらう。

- 意見交換の結果、内容に関しては概ねOKとなりました。
- 企画を進めるにあたり、広報や呼びかけに関して出された意見は以下のとおりです。
 - できるだけたくさん様々な人に来てほしい。
 - もっと福祉関係者の参画を促したい。
 - 「あなたに来てほしい」という呼びかけにしたらどうか？
 - 「人の手を借りる」という選択肢があることに気づいてもらいたい。
 - 新たな発見があることがわかるように期待感をつくる。
 - ネットワークづくり交流会は、「普段結びついていない人たちをつなぐ場である」という原点に立ち返って進めたい。江南区でこのような取り組みがあることを知ってもらうことにもなる。
 - タイトルはかたくしたくない。
 - 様々な立場の人の「こんなことがあった」という話をしてもらい、情報共有をしてはどうか？
 - 医療関係の分野との連携が図れないか？
 - 医師会との連携はどうか？
 - しかし地域包括ケアへの温度差はかなり激しい。出席してもらえないのではないか。
 - 商店の人にとっても、今後は認知症の人の対応が求められることになる。
 - お寺の住職さんは地域の情報をかなりいろいろ持っている。地域の実情や事例を話してもらってはどうか。

→ほかに地域の情報を持っている人として、NICの配達員、配食事業者、ヤクルトレディー、消防団、警察、不動産関係者、タクシー会社、認知症家族の会などが挙げられた。

- どんな分野でも関係はあるので、“ダメもと”であたってみよう。
- 企画運営委員のネットワークでも広報していこう。

以上です。今回の意見交換の内容を踏まえ、事業を進めていくことになりました。今後ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。